

# 交雑種肥育牛の出荷成績

(畜試 肉牛部)

## 1、背景とねらい

牛肉需要の増大にともない、乳牛に肉専用種を交配した交雑種による牛肉生産に大きな関心が向けられつつある。しかし、交雑種の枝肉出荷割合は未だ低く、全出荷の0.4%に満たず、交雑種の産肉性が十分には把握されていない。

そこで、交雑種肉用牛利用パイロット事業により導入肥育されたホルスタイン種雌牛に黒毛和種雄牛を交配した交雑種の産肉性等について、若干の知見を得たので指導上の参考に供する。

## 2、技術の内容

### 1) 調査場所及び頭数等

調査場所 岩手郡葛巻町 (社)葛巻町畜産開発公社

調査期間 昭和61年11月から昭和63年11月まで

調査対象牛  $F_1$ (BXD)の去勢牛 34頭

### 2) 飼養方法等

飼養方法は群飼、飼養マニュアルに基づき飼料給与している。1頭当り推定給与 TDN量は濃厚飼料TDN3416.5Kg、粗飼料TDN 461.1Kgである。

### 3) 増体成績

1日当り増体量(DG)は1.10Kgと極めて高く、一般の乳用種去勢牛のDG 1.05Kgより優れた。出荷時月令及び体重は21.7ヶ月739.4Kgとなっている。

### 4) 肉質

ロース芯面積48.2 $\text{cm}^2$ 、バラ厚6.4cm、皮下脂肪厚2.1cmであった。433.6kgの枝肉重の割合には厚脂とはなっていない。脂肪交雑は0<sup>+</sup> から1<sup>+</sup> の範囲にあり、平均1<sup>-</sup>程度に評価されている。部分肉歩留推定値は70.6%であり、乳牛去勢牛と同程度である。

### 5) 枝肉格付

歩留はAランクに44.1%、Bランクに55.9%格付され、肉質等級は4ランクに5.9%、3ランクに61.8%、2ランクに32.3%と格付されていた。歩留は和牛去勢牛と乳牛去勢牛の間、肉質等級は、乳牛去勢牛と

同程度に格付されている。

6) 枝肉販売単価

交雑種は1,100円から1,865円の範囲で販売され、平均は1,453円であった。和牛と乳用種の平均値よりやや低めで取引されている。

7) 事故率

導入頭数49頭のうち7頭が肺炎(2頭)、下痢、尿石症、肝炎(各1頭)等により死亡(4頭)あるいは廃用(3頭)となっている。事故率は14.3%である。

8) 父牛による影響

DG、バラ厚、脂肪交雑及び皮下脂肪の厚さは肥育牛の父牛により異なる傾向がある。交雑種の生産にあたっては、産肉能力間接検定成績等を参考にして交配種雄牛を選定する必要がある。

肉用去勢牛出荷成績

	導入月令 (ヶ月)	出荷月令 (ヶ月)	導入時 体重(Kg)	出荷時 体重(Kg)	D (Kg)	G (Kg)	枝肉販売 単価(円)
交雑種	1.3±1.0	21.7±1.6	64.7±23.5	739.4±31.8	1.10.±0.10		1453±227
和牛	9.8	29.0	284.2	651.1		0.63	2111
乳用種	7.1	20.4	255.2	678.2		1.05	1188

3、指導上の留意事項

- 1) 交雑牛成績は交雑種肉用牛パイロット事業の対象導入牛49頭のうち昭和63年5月から11月に出荷された34頭の成績である。8頭は現在も肥育中であり今回の成績は中間報告である。
- 2) 交雑種生産用ホルスタイン種雌牛は①初産時に難産が心配される牛、②泌乳能力が不明で、一度搾乳してから淘汰の判断をしたい牛、③近い将来淘汰を予定している牛等が適当と考えられる。

4、関連試験課題名

交雑種肉用牛の産肉性調査

5、参考資料

- 1) 農水省十勝種畜牧場 畜産経営技術実験展示事業成績の概要(1988.3)
- 2) (社)全国肉用牛協会 ハイブリット肉用牛の手引(1987.3)